

区 分	内 容
会 議 名	県都まえばし創生本部第2回有識者会議
日 時	平成27年8月6日(木) 15時30分～17時30分
場 所	庁議室
出 席 者	<p><b>【委員】</b>  (産) 曾我委員、黒岩委員、小中委員  (学) 星委員、窪田委員、大森委員  (官) 松本委員、深津委員、松井委員  (金) 南委員、武者委員、阿部委員  (労) 斎藤委員  (住民) 木暮委員、梅澤委員、 田委員  ※横堀委員、鈴木委員、鎌田委員は都合により欠席</p> <p><b>【前橋市】</b>  山本市長、細野副市長、藤井政策部長、谷内田政策推進課長、原田政策推進課長補佐、樋山副主幹、神保主事</p>
発 言 内 容	<p>藤井政策部長</p> <p>ただいまから、県都まえばし創生本部第2回有識者会議を始めます。私は、本日の司会を務めます、前橋市政策部長の藤井と申します。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。</p> <p>—開 会—  それでははじめに、県都まえばし創生本部、本部長の山本市長からご挨拶申し上げます。</p> <p>—挨 拶—  山本市長 本日は、お忙しい中、ここにお時間をいただきました。前橋の未来に、お時間をいただいたと考えております。ありがとうございます。「これがラストチャンス」、「独り立ちできない地方は残念ながら切り捨てていく」、「市役所だけでやるな」。これが政府の方針です。産・学・官・金・労・言・市民、本日お集まりの皆様方と一緒に、前橋の創生に向けて進んでいく。地方全体のモデルケースになると考えております。各委員の皆様、お力添えをどうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>—委員挨拶—  藤井政策部長 次に、選出団体の役員変更等によりまして、今回から2名の委員さんが交代となりましたのでご紹介いたします。まず、1人目は、前橋市医師会の小中俊太郎様でございます。</p> <p>小中委員</p> <p>皆さん、こんにちは。前橋市医師会の小中と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>

藤井政策部長	2人目は、群馬県信用保証協会の阿部吉伸様でございます。
阿部委員	群馬県信用保証協会の阿部でございます。7月から着任となりました。どうぞよろしく願いいたします。
藤井政策部長	どうぞよろしく願いいたします。なお、本日は、前橋市農業協同組合の横堀委員、連合群馬前橋地域協議会の鈴木委員、上毛新聞社の鎌田委員の3名が欠席となっておりますので、ご報告いたします。
藤井政策部長	<p>—議 事—</p> <p>続きまして、議事に移ります。ここからの進行は、設置要綱によりまして、曾我座長さんをお願いします。</p>
曾我座長	<p>改めまして、皆さんこんにちは。座長を仰せつかっております曾我でございます。本日は、第2回の有識者会議を開催しましたところ、大変お暑い中、またお忙しい中ご出席を賜りましたこと、私の立場からも厚く御礼を申し上げる次第でございます。また、資料4としてまとめてございますが、各委員の皆様から貴重なご意見をお寄せいただきまして、このことに対しても御礼を申し上げます。これから議事に入るわけですけれども、事務局からご説明を申し上げた後、各委員さんから自由討議という形でご意見を賜りたいと思います。活発なご意見を出していただきますよう何卒よろしく願いいたします。</p> <p>早速ではございますが、議事に入らせていただきます。まずはじめに、事務局より2つの点についてご説明を申し上げます。1つ目として、前橋版人口ビジョンの骨子案について、2つ目として、前橋版総合戦略の骨子案について、いずれも骨子案ということでございます。それでは、事務局より説明をお願いいたします。</p>
原田政策推進課長補佐	<p>事務局の原田と申します。私からは、前橋版人口ビジョンの骨子案について資料に基づきご説明させていただきます。</p> <p>資料2-1前橋版人口ビジョンの骨子案でございます。1ページをご覧くださいますと、人口動向の分析をさせていただきます。これは、2060年までを見据えた人口の分析となっております。国立社会保障・人口問題研究所の推計並びに国勢調査の数値を用いたものでございます。前橋市におきましては、2010年に340,291人であった人口が、2040年には280,181人、2060年には220,541人まで減少するという推計が出ております。なお、前橋市の人口につきましては、合併前の大胡・宮城・富士見を含めた数値で推計しております。</p> <p>続いて、2ページをご覧くださいますと、年齢3区分別の人口の推移が折れ線グラフで載っております。赤色で示した生産年齢人口と、青色の年少人口につきましては、将来的に減少し続けることが推計されています。一方、緑色の老年人口につきましては、2040年までは増加し続けるという推計が出されています。</p> <p>続いて、3ページに移ります。上段は、年齢3区分別人口の増減率分析で</p>

ざいます。2010年と2040年を比較したものでございます。総人口は、全体で17.7%の減少となっております。また、年少人口及び生産年齢人口についても、30%を超える大きな減少が見込まれております。一方、老年人口につきましては、31.4%の増加が見込まれております。なお、2010年の総人口には、国勢調査における年齢不詳の人数も含まれております。

その下段、人口ピラミッドです。2010年におきましては、60歳から64歳までの女性・男性、35歳から39歳までの女性・男性の順で、多い人口となっておりますけれども、2040年は、65歳から69歳までの女性・男性の順、その次に、90歳以上の女性の人口が多くなっているのが特徴となっております。

続いて、4ページに移ります。主に、自然増減の部分となっております。本市の自然増減数につきましては、2007年までは、出生数が死亡数を上回りました。自然増が続いておりましたけれども、2008年以降、死亡数が出生数を上回りました。自然減が続いている状況でございます。

5ページに移ります。合計特殊出生率の推移でございます。本市は、青い折れ線グラフで載っておりますけれども、2005年に1.29まで下降いたしました。その後、微増傾向にございまして、2013年には1.46まで上がっております。なお、2013年におきましては、群馬県が1.41、国は1.43という数字となっております。

続いて、6ページに移ります。転入者及び転出者数の推移ということで、社会増減の推移でございます。全体的な傾向といたしますと、転出者数が転入者数を上回る傾向が続いております。社会減の状況が続いております。

続いて、7ページに移りまして、転入者数及び転出者数の内訳の分析でございます。表が2つ載っております。上段の表は、群馬県外からの転入や、群馬県外への転出についてでございます。トータルで399人の転出超過となっております。関東1都5県とその他で分類しましたところ、東京・埼玉・神奈川の順で転出超過となっております。ただ、関東1都5県以外のその他につきましては、202人の転入超過となっております。下段の表は、群馬県内からの転入や群馬県内への転出につきまして、トータルといたしますと、239人の転入超過となっております。近隣の市町村をご覧くださいますと、高崎市については264人の転出超過、渋川市につきましては223人の転入超過、その他の部分につきましても289人の転入超過となっております。

続きまして、8ページに移ります。自然増減及び社会増減の推移でございますけれども、2005年に自然増が社会減を下回ることとなりまして、折れ線グラフがそこからマイナスの局面に入っております。そして、2008年以降は、社会減に加えて自然減が重なり、人口減少が加速する状況となっております。

続いて、9ページに移りますと、年齢階級別人口移動の推移ということで、5年刻みで移動の推移をグラフ化したものでございます。男女ともに、15歳から19歳の年齢の方が、20歳から24歳になる5年間の間で、転出超過の傾向となっており、その5年後に転入超過の傾向となっております。また、男女ともに55歳以上の方は、転入のほうが多くなっているという傾向にございます。

10ページに移ります。ここからが、人口の将来展望でございます。将来人口推計と分析でございます。青い折れ線グラフのパターン1、赤い折れ線グラフのシミュレーション1という2つのパターンを出しております。この推計の

概要ですが、下段にありますとおり、青い折れ線グラフのパターン1につきましては、国立社会保障・人口問題研究所の推計値でございます。2060年に国の総人口が8,700万人まで減少すると仮定した場合の本市の推計で、社会増減も加味されている数字でございます。この条件によりますと、2040年には280,181人、2060年には220,541人まで人口が減少すると推計されています。また、赤い折れ線グラフのシミュレーション1につきましては、青色折れ線グラフのパターン1に加えまして、合計特殊出生率を国の長期ビジョンに基づきまして、2020年に1.60、2030年に1.80、2040年に2.07まで回復させると仮定した場合の推計でございます。この条件によりますと、2040年には295,064人、2060年には256,460人と推計されまして、青い折れ線グラフに比べて減少幅は小さくなるのが分かります。

続いて、11ページに移ります。人口構造の分析ですけれども、2010年の現状値と2040年のパターン1、シミュレーション1を比較したものでございます。表が2つ載っておりますが、下段の表をご覧いただきたいと思っております。2010年から2040年までの増減率、まずパターン1で見ますと、総人口は-17.7%、またシミュレーション1で見ますと-13.3%と4ポイントほどの差しか出ていませんけれども、その内訳として、0歳から14歳までの人口を見ますと、パターン1の場合は-38.8%、シミュレーション1の場合には-14.0%ということのでかなりの改善が見込めます。

続いて、12ページに移ります。老年人口比率の変化（長期推計）でございます。これも、パターン1、シミュレーション1で推計してございますけれども、パターン1の場合、65歳以上の老年人口比率は、2060年までだんだんと上がっていく状況となります。一方、シミュレーション1では、2045年の36.0%をピークに、その後はやや減少傾向が見られるというものです。

以上、人口ビジョンの骨子案につきまして、その概要をご説明させていただきました。また、配付資料2-2として、「人口ビジョン策定にかかるアンケート調査（抜粋）」を配付してございます。こちらにつきましては、お時間のある時にご覧いただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。

谷内田政策推進課長

続いて、前橋版総合戦略の骨子案につきまして、ご説明いたします。

人口減少という大きな病気を診断するのが人口ビジョンであります。本日は、本市の人口動向にかかる基本的なデータを提示させていただきました。皆様からいただいた意見の中にもございますが、前橋の地域特性については、今回ご提示ができておりませんので、次回以降、ご提示をさせていただきたいと考えております。

人口ビジョンを踏まえ、人口減少に対する処方箋を提示するものが総合戦略であります。本日は、総合戦略に掲げる基本認識や基本目標についてご説明をさせていただきます。

資料3-1、2ページをご覧ください。前橋版総合戦略に掲げる基本目標と政策パッケージについて、事務局案を作成させていただきました。基本的には、社会減対策と自然減対策となっております。

まず、社会減対策の中では、基本目標1には、「地域産業の稼ぐ力を高め、安定した雇用を創出する」を掲げ、政策パッケージとして、地域特性を活かした

しごとづくり、安定した雇用の創出、農業の付加価値向上、多様な働き方の確保を挙げております。

続いて、基本目標2には、「前橋への新たな人の流れをつくる」を掲げ、政策パッケージとして、定住人口の増加、交流人口の増加、大学等の活性化・魅力向上、地方における豊かな生活の具現化を挙げております。

続いて、自然減対策の中では、基本目標3には、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」を掲げ、政策パッケージとして、結婚・出産支援、子育て環境の充実、働き方改革を挙げております。

続いて、基本目標4には、「人口減少と高齢化を前提としたコンパクトなまちづくり」を掲げ、政策パッケージとして、都市のコンパクト化、中心市街地の活性化、ファシリティマネジメントの推進を挙げております。

今回ご提示をする基本目標及び政策パッケージは、総花的に見えるかもしれませんが。ここを議論のスタートにするという意味で、幅広く分野をカバーしています。しかしながら、このままではありません。今後、本市の地域特性を深掘りし、民間の皆さまと連携しながら、本市独自の総合戦略を創ってまいります。

4ページ及び5ページをご覧ください。政策パッケージの具現化に向け、現在検討中の事業例を記載させていただきました。例ということを強調させていただいたのは、記載した内容が最終版ではなく、これから事業の形を変えていく可能性が十分にあるということです。

基本目標1に関連するものとしては、ジョブセンターまえばしの開設、インキュベーション施設の開設、農商工が連携した就職活動支援などを検討しております。市内の事業者や金融機関と連携しながら、事業化に向けて調整を進めていきたいと考えております。

基本目標2に関連するものとしては、新たな道の駅の開設、産学が連携した人材育成、新たな奨学金の創設などを検討しております。

基本目標3に関連するものとしては、前橋版ネウボラ構想、二世帯近居・同居住宅支援などを検討しております。

基本目標4に関連するものとしては、都市のコンパクト化と公共交通ネットワーク形成、前橋版CCRC構想、中心市街地における都市機能の集約などを検討しております。

これらはいくまで例示でございますが、これからの自由討議における参考にしていただければと思います。事務局からの説明は以上です。

曾我座長

ありがとうございました。この後、自由討議ということで、各委員さんからご意見をいただきますが、その前に、事務局の説明に対して何かご質問等がありましたら挙手をお願いいたします。

特にないようでございまして、自由討議に移らせていただきます。大変恐縮でございまして、お手元の資料4をもとに、お1人あたり5分程度でご意見を賜ればと思います。名簿の上から、まずは、JR東日本高崎支社の黒岩支社長様からお願いいたします。

黒岩委員

1つ目は地区別の人口減少の原因、高齢化が進む要因を環境も含めて地区別

に見ていかなければいけないということでもあります。地区別の高齢化等の将来推計をきちんと見ていくことによって、何が必要か、何が原因か、何が問題かを踏まえながら、病院や福祉関係、公共施設の整備をどうしていくか、最後は選択と集中になってくるのではないかと思います。市内全体を満足させるというのは不可能ではないかと感じているところであります。

都市機能は駅周辺に集約すると、あとは公共交通機関となるのではないかと考えられます。核となる地区を決めていく作業が将来的には必要で、それを公共交通機関で結びつけていくというのが具体的な作業になってくるのではないかと考えられます。

それから、前橋版の総合戦略のなかで、駅周辺の周辺市街地における空き家やテナントビルなどの動向を具体的に抑えておく必要があるのではないかと考えられます。

群馬県は災害が少ない地域ということがポイントであると考えます。アンケート結果からすると前橋の就職希望は少ないというのが大きなポイントになってくると思いますし、これを解決しないと外へ出て行くのは止められないと思います。

そこでポイントとなるのが前橋地区の防災の優位性であります。そういった特徴を対外的に前面に出し、企業誘致やまちづくりに生かしていくことが他地域との差別化が図れるのではないかと考えております。

その他の自由意見としては、子育て支援については、アンケート結果では2人目3人目についての障壁が大きいことが上げられます。コンパクトシティだけでなく、子育て支援との整合性をとりながら、支援策を考えていくことが必要だと考えます。

曾我座長

ありがとうございました。続きまして前橋市医師会小中理事様お願いいたします。

小中委員

医師会からの意見といたしますと、医療と介護という視点で人口ビジョンにどう関わっていけるかを検討しております。対象は二世帯あると考えております。1つ目は出産・子育て世代、2つ目は高齢者世代です。出産・子育て世代としては、事務局から先ほど説明がありましたが、合計特殊出生率は1.46%で、前年度から0.07%上昇している状況であります。群馬県は1.41%で国は1.43%です。0.01%上がるというだけでも大きな人口増につながるわけですから、上昇した理由を詳細に分析していただき、どうしたら出生率が増加傾向になるのか分析が必要だと考えております。

政策パッケージで記載させてもらいましたが、今は晩婚で第一子の出産が遅くなっていて、なかなか2人目3人目が難しい状況でございます。これは医学的な部分、女性は年齢が高くなれば生みにくくなるリスクが高くなるというのがありますが、社会的な要因も関わってまいります。医師会なので医学面から見ると、不妊治療、特に体外受精等の特殊不妊治療というのは1回の費用はかなり高額であり、いろいろな条件がついてきます。このような助成制度を見直していただき、出産・妊娠をしやすくする環境をつくっていただければと思います。世の中では2人目不妊が取りざたされておりますが、これは、医学・生

物学的理由だけでなく、社会的要因も含まれているので、今後みなさんから意見を伺えればと思っております。

育児支援については、病児保育というのがあります。朝、急に子どもが病気を発症し、働く世代の若い親が仕事にいけないということで、病児保育事業が本市でも発展しております。しかし、前もって診断書が必要だったり、書類がたくさん必要だったり、アクセスしにくい状況があります。病児、病後時といった保育事業をアクセスしやすい形で確保していただけると、子育て世代の支援につながると思います。

医師会においては、産科小児科のニーズに合わせ、市、県と連携して24時間の救急体制を拡充している状況でございます。これは、県下でも特出すべき整備状況でして、こういったものがいろいろな世代にアピールできる状況であれば、人口ビジョンの方向性にも合致するのではないかと思います。

次に高齢者世代を考えると、介護保険、医療保険など今後保険料がかかってしまう世代であります。これをどのように受け入れていくかは経済的にも難しい内容を含んでおりますが、今後、例えば、居住地特例や医療保健、国民健康保険をどうするかを勘案した上で、じっくり分析した上での話となりますが、コンパクトなまちづくりをしていければと思います。

具体的にはCCRCの話も先ほどでしたが、病気がないリタイアされた方を対象とする形で、独居世帯、あるいは公共交通機関の発達した首都圏から転入された高齢者等を考えた場合、医療機関を受診するのうまくいっていないのが現状です。定期受診もままならない高齢者が非常に増えている状況があります。自家用車運転に頼らない高齢者の医療機関受診体制について、デマンドバスや乗り合いタクシーなど公共交通機関を使って医療機関に送っていただけるようなシステムをつくっていければ、高齢者にも住みやすいことをPRできるのではないかと思います。

最後にその他の自由意見として、前橋市と連携し、昭和52年から40年近くの歴史をもつ前橋赤十字病院で夜間急病診療所を運営しておりますが、その受診者の12%が市外受診者であるというデータがとられています。こういった方へ暮らしやすさの意識調査も含めて、前橋市に住むと手厚い環境を享受できるということPRできるのではないかと思います。

曾我座長

ありがとうございました。続きまして前橋工科大学星学長様お願いいたします。

星委員

議論を始めるにあたっては、どういう裏づけのためにデータを分析したのかわからないと我々は意見を打ち出すことができません。どうしてそのようなデータにしたのか、そこから何を引き出したのかを言っていないとこちらは何を言ったらよいかわからず、結果的に総花的な内容の繰り返しとなってしまう。

例えば人口ピラミッドを見てみると、20代から30代に関していえば、前橋市は他市と比べて必ずしも人口が減っているわけではありません。それはどうしてだろうというと、それはおそらく前橋から外の大学に出て行く部分もあるが入ってくる部分もあるということです。もしデータを分析するならそこまで詳しくやらないと全体的に減った増えた話までしかいけないので、もう少し

特色となるようなデータが欲しかったと思います。そういった意味で、具体性をどう加えたらよいかの議論ができず残念に思います。

もうひとつ言いたいことは、どういう前橋にしたいのか、何が前橋の特徴なのか、マイナスだったところをどうプラスにしていくのかという市全体の方向性は各団体が出すものではなく、市が示すべきであり、そこがないのが残念です。単に事業の寄せ集めにしかなくていいので、先ほど山本市長さんがおっしゃったように、もっと大きなところで生き残っていくためにはどうしていくのかを市から聞かせてもらった上で私達が意見を述べるのがよいと思っています。

前橋のCCRCということと、安全安心な前橋をどうつくっていくかについては工科大でも議論しています。私達は、単に医療施設だけでなく、教育、仕事の間も含めて、前橋から出て行く人を減らすだけでなく入ってくる人を増やすということを考えています。高齢者が移住するだけでなく施設があることによって若者も引き寄せられるのではないかと考えております。例えば、CCRCでいえば、介護や医療などの人が多く必要になるわけですが、我々が考えているところでは、前橋市内には十分に基盤となる教育施設があるということです。市が具体的にどういう施設にしていきたいのか言っていただければ、工科大としてこういうことができるという話ができます。そこまでいければ生き残れる方法も考えられると思っています。そういう意味では、少し批判的になってしまっていますが、地域的な内容は次回会議でということだけで、今回はデータを出してもらっているだけにすぎないと思っています。

私達が考えているのはCCRC構想と前橋のまちづくりをどうしたら結び付けていけるのか、それに対して工科大として、どういう風にできるというビジョンはいつでも打ち出せるようにしています。

曾我座長

ありがとうございました。続きまして群馬大学窪田理事様お願いいたします。

窪田委員

人口ビジョンに関しては前橋市という枠で考えていることに危惧しております。もう少し広く周辺市、高崎市や渋川市なども含めた上でビジョンを考えたほうがよいと思っています。そうしないと高崎や渋川も同じようなことを考えており、お互いに人の取り合いとなってしまいます。前橋市独自のものと周辺部も含めた内容それぞれ考えていただければと思っています。

それと、群馬県内の移動も含めた状況の検討もしていければもう少し広い考え方ができると思われまます。

総合戦略については、いくつかパッケージが出されておりますが、それぞれが独立しているものではないので、その間の連携関係というものについての考え方を出していただければよいと思います。それと、前回でも言わせていただきましたが、主体は地域住民なので、その地域のコミュニティをどう活用していくかの取組を入れてほしいと思います。市としてこんなことをやりますよ、という独自の取組だけでなく、住民側の取組を引き出すような支援策や考え方を入れてもらおうと良いと思います。

また、基本目標の政策パッケージのなかでもいくつかありますが、「選択」と「集中」というようにパッケージのなかの中心テーマとなるものを決め、それ

に関連付ける形でそのほかの事業を展開していくのもひとつの考え方だと思います。民間活力導入というときに大手のデベロッパーで大きなものをつくるといってもありますが、地域の富が外に出て行くだけで、地域そのもののポテンシャルを持続、発展するということにはつながらないという気がします。できるだけ地元を活用するという考え方をぜひ持ってもらいたいと思います。

また、大学の観点からすると、大学等の活性化、魅力向上、奨学金はありがたいことです。学生の奨学金に対する要望は多いこともあり、そういった意味で大きなインセンティブになると思っております。それに加え、外国人留学生の定着・定住については、県でも力を入れています。特に前橋は外国人留学生多く、県全体でも1000人くらいおります。そういう人材を活用していく上でもインターンシップは重要だと考えます。ぜひ組織的な形でインターンシップの受け入れ先の企業を検討していただくのがよいと思っております。

自由意見としては生産人口、老年人口が対象として考えられているが、高校生くらいの若者世代を対象とした地元意識を引き出すようなアイデアを考えるのもよいのではないかと考えております。

曾我委員長

ありがとうございました。続きまして共愛学園前橋国際大学大森副学長様お願いいたします。

大森委員

人口ビジョンについては不勉強なのでお聞きしたという形ですが、今後人口減少は否めないとしても、今の生活がいかどうかという議論の余地はあるとして、人口減少の限度のラインを下回るといって人口ビジョンを作るのなら、下回った上で小さくなったまちをどうしていくかという総合戦略になると思うし、上回る人口ビジョンであれば、そこを食い止めるための総合戦略になると思います。計算する方式があるのかどうかわかりませんが、そのラインがどれくらいである必要があるのか、ということを書かせていただきました。

あとは、基本認識のところ、市として書きづらいかもしれませんが、人口が減り、税収が少なくなることで、果たして今と同じ保育環境が得られるのかどうか、市民サービスの低下もあるのではないかとことです。もし子育て支援、教育予算が縮減していくのであれば、我々世代はそこにすみたくなくなるわけですから、そういうことも基本認識として必要なのではないかと考えております。

目標と政策パッケージについて、1つ目は「定着」という言葉が必要だということ、2つ目はCCRCについて必要なのではないかとことを書かせていただきました。ここで書いたのは、拠点としての集約としてのCCRCをモデルとしながらも、二世帯近居政策ともあいまって市全体がCCRC機能を持っているような、「前橋版CCRC」構想であります。学習機能や医療機能をいれたいわゆる外国版CCRCで終わるのではなく、そこから市民力を派生させるようなものです。例えば若夫婦のところに県外からおじいちゃんおばあちゃんが県外からやってきて近くに住むようになったとして、そのような人もCCRC地域に住んでいる人と同じように活動できるような、前橋全体がCCRCというような意味での「前橋版CCRC」を模索できないかということに記載しました。

もうひとつは政策パッケージ同士のパッケージ化、連携についてであります。便宜上6ページに関連図を示してみました。例えば多様な働き方と働き方改革はほぼ同じことですし、子育て環境の充実のためには安定した雇用が必要となります。それが別のパッケージではないという認識を持ってパッケージ政策を進めていかないと、雇用の目標として子育て支援があるのだという意識があるかないかで、だいぶ違ってくるような気がする。このような関連性のスキームがあった上で、それに取り組むプロジェクトの人たちがその関連性を意識しながら連携していくことできたらよいと思っております。

自由意見については、CCRCについて、医療や福祉だけでなく大学という立場で学びの要素は欠かせないと思っております。アクティブシニアという視点での生涯学習などについては、文系の大学であっても役割は大きいと自負しております。市内のそれぞれの大学の特色を生かしていくといろいろな大学がかかわりあってやっていけると感じております。同じ観点から、ワーキンググループの構成メンバーとして、CCRCに生涯学習課が入っていないのは好ましくないとされます。社会教育は非常に大きなポイントであり、子育て支援についても教育委員会で策定している教育振興基本計画のなかでは、充実の2の項目の大きな柱となっています。例えば家庭教育学級はどこの公民館でもやっている非常に大きな柱です。社会教育、生涯学習を加えていくことが必要だと思われま。

あと、書いてはおりませんが、全体として教育という項目が少し弱いと感じています。例えば、東京から結婚してこちらにくるとして、親として教育環境はどうなんだというのはすごく気になることだと思います。例えば、いい大学にいけるのかと思う親もいれば、心豊かな教育をしてくれるのかと思う親もいて、思いはさまざまです。ただ、いずれにしてもいい学校があつていい教育がうけられるのかというのは選択のポイントになる。前橋市の公立の小中学校が地域と連携しながら、コミュニティ化しながら、いい教育をしていくとことをうたえないと良くないと思います。

曾我座長

ありがとうございました。続きましてハローワーク前橋松本所長様お願いいたします。

松本委員

最初に、人口ビジョンの骨子案に対する意見としては、出生率のみのシミュレーションだけだったので、どうしたら出せるのかは分かりませんが、社会的な増減要素も入れたシミュレーションもできたらよいと思います。それについては、この後の検討の中に地域の特性も含めて入ってくるとのことで、今後検討するという理解でよいのでしょうか。

それと次の総合戦略の自然減対策の女性の人口の年齢層のところですが、15歳から49歳という区分けになっているんですが、人口ビジョンのほうは20歳から39歳という区分けになっています。ここを統一したほうが良いと思います。女性の出生の層で見れば、20歳から39歳のほうがよろしいのかな、と思います。細かいことですが、入れさせていただきました。

基本目標の4番で区分けの問題ですが、目標の1～3までは社会減とか自然減の防止策ということですが、4は、人口減少と高齢化を前提としたというこ

とですので、対応策という区分けで考えた方がいいのではないかと思います。それから、その他自由意見のところは書いていないのですが、一つ賃金とか世帯の所得といった視点もこの中に入れられないかなと思いました。世帯所得というと基本目標の1～3全てに通じることだと思いますし、1でいえば、安定した雇用なども、賃金のことが関係しますし、前橋への新たな人材の流れについても所得が関わってくると思います。特に3の結婚出産・育児については、所得が大きな要因にもなるのかなと思いました。特に群馬の場合、北関東で比べても、あまり賃金・所得が高くないのかなということで、県庁所在地で見ても同じような状況かなと思います。それは、賃金所得を増やすのは難しい面もありますので、例えば、それに伴う助成とか補助とかいうことも加えたいかがかな、と。ここには書かなかったのですが、付け加えたいと思います。以上です。

曾我委員長

ありがとうございます。続きまして群馬県行政県税事務所の深津所長様お願いします。

深津委員

資料では8ページ、9ページでございます。すでにお話いただいているように、前橋市の地域特性ですとか課題を早めに把握してみんなで共有しておいた上で考えるということが大事かなと思います。ひとつふたつ例を申し上げますけども、アンケートの調査で前橋市内出身の学生は市内で働きたいという回答が46.7%ということでそこそこ高いと思いますけど、この理由は何か。一方で大学卒業後は前橋で就職したくないと言う高校生、高等専門学校生は73%と高い。こういった理由を分析することで前橋市の特性、魅力ですとか、課題といったものが明確になってくるのかなと思います。特にこのアンケート調査で9割の方が前橋市に住み続けたいとしております。これは明らかに前橋の魅力だと思います。その理由をしっかりと分析をしてみんなで共有しておくべきだと考えたということが1点目に記入してございます。

2点目に記載されているのが、県ではこういう構想で検討しておりますという参考になります。要は総花的な総合計画とこの人口ビジョン・総合戦略を一体的に作成していく予定となっておりますので若干総花的なところもありますが、議会に提案しているところでもありますので執行部の案という段階ですけれども、基本理念を「群馬の限りない可能性を大きくはばたかせ、群馬の未来を創生する～「魅力あふれる群馬」の実現」という風にしております。

基本目標という点では、今の県の総合計画の3つの基本目標が、国のまちひとしごとに対応しているものですから3つの目標を続けていきたいと今の段階では考えているということです。

9ページに行きまして、総合戦略についてなんですけど、特に基本目標、政策パッケージについてということです。何点かポチポチという風にして説明してありますけども、抽象的なお話で申し訳ございませんが、前橋市の魅力というお話しをしましたけれども人は魅力がないと集まらない、若者は仕事がないと帰ってこない、若者にとって魅力ある仕事、多様な職種、若者にとって適職を提供してあげるといった視点も必要なのかなと思います。こういった多様な産業だとか職種、適職を提供するには、こちらもお話があったとおり前橋市単独と

いうことでなく周辺都市と連携した 広域的な取組が重要なのかなと考えております。もっと広い地域全体で多様な産業や多様な職種を提供して、地域全体で若者を呼びこむのがいいのかな、そうすると人の流れもダイナミックなるのかなと考えております、3つ目になります、多様な働き方の確保という点では女性高齢者を応援するといったほかに障害者も加えたらどうかという提案でございます。障害者も戦力、労働力として活用すべき時代なのかなと考えております。

3点目ですけれども人の流入を図るには、前橋の魅力を明確化するということが重要なのだと思います。その魅力を高めていくということに加えて前橋市自体の魅力を高めたらどうかと思います。都市ブランド化やイメージアップなど、前橋が憧れの存在になるという視点で考えていくのもひとつの方法ではないかと思います。

4点目は、前橋の魅力を高める、ブランド化を図るには、前橋を構成するのは市民ですので、市民が愛着や誇りを持たなければならないので、市民の誇り・シビックプライドを醸成していくのも大切なのかなと考えております。

5点目は、交流人口の増加という点では既存の文化の活性化だけでなく、新しい文化の創出・発掘という視点も加えたらいかかという提案でございます。急に具体的になりますが、赤城山だけでなく、流域面積日本一の利根川を活用していくことはいかがでしょうか。赤城のヒルクライム、サイクリングロードをつなぎ、赤城と利根川をセットで考えるのもいいのではないかという話です。

6点目ですが、アンケート結果の市民のニーズでは、子育てと仕事の両立できる環境整備が突出して大きいです。市民のニーズを計画の中に反映させていくことが大切だと思いますので、子育てと仕事の両立というところをできるだけ強調し、クローズアップして取り上げていく。具体的には実現に向けた具体的な施策を複数パッケージ、セットにして盛り込んでいくという手法でよろしいのかなと思います。

最後に7点目ですが、アンケートの調査の人口減少高齢化の対策としては、医療福祉サービスの充実が上げられています。こういった市民のニーズを踏まえて、医療福祉サービスを加えて安心安全な環境づくり、まちづくりをもうひとつの政策のパッケージの柱として基本目標4の中に盛り込んでもいいのかなと思います。以上です。

曾我会長

ありがとうございました。続きまして、前橋市都市計画審議会松井会長様からお願いします。

松井委員

都市計画審議会は、道を拡幅するとか、都市のインフラ整備という風に考えられがちですが、前提としてはそこに暮らす人々が安心安全で心地のよい暮らしのできる場所づくりについて審議する会だと認識しております。そういう立場から考えると、さまざまな領域の話題と関連しています。

最初の骨子案に対する提案、意見ということですが、このデータは非常によく調べられていると思うのですが、分析という点に関してはまだ結果が見えていません。さきほど大森先生が発言されたましたが、人口をどの程度にとどめることができればいいのか、というある種の指標を示していただくと我々も

提案がしやすいと思います。

アンケートについても、例として大学卒業後、前橋市内での就職希望についてのアンケートの結果がありますが、なぜ市内で就職を希望しないのか、どうすれば市内に就職を考えるのかというアンケート項目があると、より適切な分析をすることができると思います。

それから総合戦略の骨子案に対するものですが、基本目標4の中に中心市街地の活性化という欄があるのですが、「魅力ある都市景観の創出」をぜひ加えていただきたいと思います。どうしても行政の作る報告書あるいは、そういうまとめの中に、デザインという言葉が出てこない状況が未だにあると思います。俗な言い方ですが「格好良さ」ということは非常に重要だと私は思います。格好良さをつくりあげるのには質の高いデザインですので、そのような言葉をどこかに入れていただきたいと思います。

基本的なまちづくりに関しては、前回も延べさせていただきましたが、総合計画の中で計画に沿って進んでいると思います。ただ高齢化社会が進むにつれて、やはり地域核と都心核を結ぶための公共交通手段は非常に重要な要素になってきます。LRTの話は富山とか高岡とか宇都宮とか日本の各市で進んでいるわけですが、前橋でも進んでいるのではないかと思います。上毛電鉄の既存軌道を延伸するような形で中心市街地のほうにLRTを持ってくることができれば、非常に大きな街の魅力の創造につながると考えまして自由意見に書かせていただきました。

これから地域の特性を踏まえた調査が入るという話ですが、今までの委員の先生方のお話を聞いて、首都圏から前橋に移住者を増やすためにはどうすれば良いのかと考えたときに、例えば首都圏の物価と前橋の物価を比較して同じ収入であれば使い勝手がこれだけいいと広報することも一つの大きな売りになると思いました。

実は私は東京に家族が住んでおります。東京に何日かいると夜になっても涼しくなりません。非常に土が少なく、全面舗装されている場所が多いからです。雨も降りませんし、夕立もありません。いつになっても温度が下がっていきません。

それに対して、コンパクトな街の周縁に後背地をもつ前橋に住んでいると夜はそれなりに心地いい風が来る日があります。過ごしやすさも大きな生活上の利便性につながってくると思いますので、広報を含めご検討していただきたいと思います。

何らかの形でまちが変わったんだということを、多くの人が感じる場面がないとなかなか事は進んでいかないと考えています。

曾我会長

ありがとうございました。あと実は6人の方からご意見をいただいていますので、全員の方からご意見をいただきたいわけでございます。大変恐縮ですがお一人5分の中でご意見いただけたらと思います。続きまして、群馬銀行の南取締役様お願いいたします。

南委員

それでは人口ビジョンの骨子案に対する意見についてですが、シミュレーション1における平成52年の予定出生率2.07の推計人口は、295,064人で、現

在比マイナス 45,228 人と高めの数値ではありますが、これを最低目標値としていかに計画を組み立てるかという考え方が必要なのかなと思います。

人口ビジョンの策定にかかるアンケート調査結果によれば、前橋市の定住希望が 9 割ある一方で、市内への進学または就職志望率が低いことや、子育て世代への支援策拡充、公共交通網の充実を望む声が多いなど、課題も浮き彫りになっております。また、こうした課題に具体的にどのような取組をするのかを総合戦略に盛り込む必要があるのかなと思います。

次に総合戦略の骨子案に対する提案ですけれども、人口減少と高齢化の進展は、地域経済の縮小をもたらすという意味で、地元金融機関としても存亡にも大きく関わることであります。行政との危機感を共有しまして地域産業の稼ぐ力の向上に取り組まなければならないと強く感じているところであります。

人口減少と高齢化の構造的な課題解決には長期間を要しますが、東京一極集中の是正は地方が持つ魅力を、関係者が知恵を出して高めることで解消できるという風に考えております。若者が一度群馬を出ても、また戻ってきて就職し、結婚し、子供を育てようと思う環境づくりの一翼を今後担っていきたいと考えております。

また基本目標 1 の政策パッケージについては、地域金融機関として協力できる項目が記載されておりますので、今後予定される総合戦略の策定の中で、具体的取組等について意見を出していきたいと思っております。超高齢化を支える介護福祉士の不足が現実化しているわけですが、この対応策の視点の記載も今後必要なのかなと思います。

さきほど事務局から意見のあった政策パッケージの具体化に向けた検討案の中で、安定した雇用の創出ということでインキュベーションの施設の開設がありました。こういった施設の開設等に対しては、新たなビジネスや雇用の創出を目指しているわけですので、資金調達あるいは開業準備、ハードソフト両面から支援したいと思っています。また新たな道の駅の開設等におきましても、いろいろな情報等を共有しながらお手伝いできればと思っています。

また大学の産学が連携した人材育成、この事業に対しても、金融機関がご協力できればという風に考えております。前橋版ネウボラ構想ということで、妊娠、出産産後、子育てまでを切れ間なく支援するというところでございます。今年については 8 月 1 日から就職活動、面接等始まっているわけですけれども、当行志望の女子学生の何人かが面接で出した意見で、「なぜ群馬銀行を選んだのか」という質問に対して、群馬銀行は産休育休が合わせて 3 年取れるのですが、「そういった制度が整備されているので、群馬銀行を選んだ」というものがありました。今の学生は単に就職できるという観点ではなく、就職した中で、結婚をして辞めるのではなく、長期的なビジョンを持って就職を目指しているという実態が出ているのではないかと思います。そういう中で群馬に帰ってきて、群馬に勤めてもらいたいとしても、そういう制度を、群馬県の企業、前橋市の企業がそういった制度を揃えられるのか。または行政が補助金や政策により制度を推進させることができるのかということが学生を呼び戻す重要なポイントではないかと思います。

前橋は C R C 構想で、高齢者が安心して暮らせるというまちを目指すのかなと思います。地元出身で東京で定年を迎えた方の中には、いろいろとスキルを

持った方が大勢いるといます。そういった方に、CCRC構想で戻ってきていただいて、地元の中小企業の活性化する、不足している技術などを指導する、というような構想にも、単に教育ではなく、中小企業等の教育という点でも合わせて入れられるのではないかと思います。以上です。

曾我会長

どうもありがとうございました。続きまして日本政策金融公庫前橋支店の武者支店長様をお願いします。

武者委員

日本政策金融公庫です。人口ビジョンにつきましては、転入者の分析要素として外国人の動向を入れたらどうかという意見を出させてもらっています。人口維持・増加策としては首都圏からの転入だけでなく、外国人労働者、留学生を含め、その方々のうち、短期的な労働で帰っていく人又は、定住する人はどのような方々なのか。定住する人を増やしたいのですから、定住する人がどの地域にいて年齢的にはどうなのか、そのことが分かるデータがあるとよいというのがひとつ目です。

2つ目はJターンを考えた場合に、群馬県であれば利便性から高崎・前橋が主たる候補になるかと思っています。その時に前橋への転入をより促進するために、高崎との比較分析も必要ではないかということです。

前橋らしさや良さをアピールできるような地域特性に関わるデータはまだ示されておりませんので、そういうものを出していけばいいのではないのでしょうか。特に「子育て環境のよさ」というのは前橋の非常によいアピールポイントではないかと思っております。高校卒業後、首都圏で大学進学、その後就職という道を通ったとしても、実際に家を買うとか子どもを育てるといったときに、地元の群馬県に帰りたいという人はかなり多く存在していると思いますので、その人たちが生活基盤を考えると、何を重要視して地元に戻る決意をしたのかその要因のデータ分析が必要だと考えます。

総合戦略の骨子案ですが、具体的に考えていく上では「前橋らしさ」に基づいてどこに力点を置くのかが明示できるとより施策が明確になるのではないかと思います。

具体的にいくつか書かせていただきましたが、ひとつは定住人口の増加策で、首都圏学生の採用活動です。事務局案と完全に重なってしまったアイデアではありますが、商業・農業・工業に関わらず、一元的に市が仲介するような形で、学生にとっては行政関与による安心感を付与し、また企業側・農業者側サイドについては費用面や信用面で学生へのアピール度を高めることができます。特に農業の分野であれば農学系だけでなく、一般学生を呼び込むということが非常に大事になっていくと思います。農業について考えれば、農業人口は少なくなっていますし、実際に農業をやっている現場では従業員が不足、労働力不足が起こっています。かつ、耕作放棄地も増えております。人口増を考える上では、農業はかなり有力なターゲットになるのではないかと思います。首都圏出身者で農業をやりたいという人たちの意向として、東北・九州とか全然関係ないところには行きたくないと考える人も多いかと思っています。群馬県は農業で考えれば首都圏にかなり近いところで、アクセスがしやすく非常に立地が恵まれています。新しく首都圏の人たちを、群馬県を地元としない人たちを呼び

込むのであれば、農業は非常に魅力的な産業ではないかと思えます。

首都圏勤務者の居住促進についてですが、家を持つと思ったとき、子育て環境の良さというのも一つのPRになりますし、勤務地は東京・埼玉で、家族は群馬県に置くことができるのが、前橋市の良さであります。働いている人の知的好奇心を満足させられるような大学のサテライト講座や、地元の経営者との交流の場を持つことで、勤務者についても「前橋で家を持って良かったな」と思わせることができるのではないのでしょうか。

外国人定住者の促進については、先ほど申し上げたとおりです。

次に、転勤族のロコミ利用についてです。私自身、転勤族であります。前橋には全国転勤型の企業が多く存在しています。その中で、支社長、工場長、支店長クラスの人を前橋市の観光大使として任命し、PRをしていただくというのはどうでしょうか。これは、転勤後のロコミによる首都圏での前橋の知名度アップを図っていく取組です。

次は「農業の付加価値向上」についてですが、新規就農者への支援、エネルギー対策として、例えば食の駅のファームドゥ(株)さんの会社では、耕作放棄地にソーラーパネルを設置して、水耕栽培で野菜を作っております。そこでは障害者雇用も実践しております。また、シニア農場というアイデアもあるかと思えます。

企業の誘致という点でいえば、普通商工業中心となりますが、最近では野菜工場であるとか、富士通のICT技術を活用した農業とか、色々な企業が農業分野に進出しております。そういった農企業の活用地に前橋を選んでもらうようにしていければよいのではないのでしょうか。

最後にその他自由意見として書かせていただきましたが、私は全国転勤族で出身地の群馬に、30年振りに帰ってきました。地方で勤務する中で「前橋・高崎はライバル関係が強烈なんですよね」とよく言われます。これはストーリー性もありますし、仲良く手を繋ぐというよりはむしろ切磋琢磨するライバル関係として競争していく中で前橋に移住する人を集めていくというやり方が知名度アップに繋がるのではないかと思ひ、書かせていただきました。以上です。

曾我座長

ありがとうございました。続きまして、群馬県信用保証協会阿部専務様お願いいたします。

阿部委員

群馬県信用保証協会の阿部でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。絞り込んでお話をさせていただきたいと思ひます。

まず、人口ビジョンの骨子案についてです。データを見させていただきましたが、「(4) 転入者数及び転出者数の内訳の分析」ところで平成25年度分だけしかデータがありません。過去3年間分くらいさかのぼって見た方が全体の傾向も分かりますし、単年では表れない分析も得られるかと思ひますので3年分くらいのデータを見てみたかったかなという印象です。また、群馬県外、群馬県内ともに「その他」の占める割合が非常に大きいです。骨子案に記載はありませんが、沼田から前橋への転入はどうなのかな、渋川からの転入は多いが沼田はどうなのかななど他市のデータについても知りたいたと思ひました。

総合戦略の骨子案についてですが、基本認識の冒頭部分には、やはり「少子化」「人口減」というところが総合戦略の基本テーマなわけですから、「前橋市における少子化の原因を徹底的に調査分析し、少子化の要因を改善又は取り除くことに最大限の力を注ぐ」ということを追加された方がよろしいかと思いません。理由は、記載のとおりです。

それから、基本目標1の「地域特性を活かしたしごとづくり」につきましては、前橋ならではの伝統産業も活かす必要があると思いますので、「伝統産業のイノベーション、高付加価値化を推進」「地域の自然、文化、歴史、食などをブランディングし観光産業を育成」を追加されてはどうかと思いました。

経済産業省で「コト消費」「地域ストーリー作り」がうたわれておまして、消費者は物やサービスを単独で消費するのではなく、一連の出来事、「コト」というストーリー性を持ったものに対して消費をするということです。

それから、「前橋は市全体がきれいだ」という見栄えの面であったり、防犯面が良かったりすれば、前橋に対する見方も違ってくるのではないかと思います。

15ページに入りますが、基本目標2「交流人口の増加」についてです。「インバウンドの推進」「市民のホスピタリティ（おもてなしの心）」といった部分も追加されてはいかがでしょうか。インバウンドについてですが、海外の方をどのように迎え入れるのが大事なテーマです。東京に近い群馬・前橋がどのように施策として取り組んでいくのが重要です。例えば市のホームページで英語版はあると聞いておりますが、中国語、韓国語も入れてみてはいかがでしょうか。

基本目標3「結婚・出産支援」、「働き方改革」についてです。全国的に離婚率が上昇傾向にあるということですから、再婚の支援をどうするのか、新婚カップルを市内に居住することを奨励するのかという部分も検討されてはいかがでしょうか。

「働き方改革」についてですが、先ほど南委員がおっしゃっていたように、県内の大企業は産休・育休が比較的取りやすいかもしれませんが、中小規模企業は難しいと思います。そのような企業に対してなんらかの補助をするような仕組みが必要であると思います。群馬県信用保証協会からは以上です。

曾我座長

どうもありがとうございました。続きまして、男女共同参画審議会の斎藤委員様お願いいたします。

斎藤委員

よろしく申し上げます。17ページをご覧ください。まず人口ビジョンについてですが、前提となる部分、他市との関係においてです。確かに高崎と競争することは悪いことではないと思います。しかし、高崎と人口を取り合うのでは、話が違うのかなと思います。渋川、高崎、伊勢崎など連携しながら、取り組んでいくべきだと思います。私は前橋市の男女共同参画審議会の会長ですが、同時に渋川市のこども子育て会員の会長でもあるので、渋川の人口が前橋に移動されても困るわけです。私自身は吉岡町に住んでおりますのでどこの地域も上手く行ってほしいと思うわけであります。同じことを前橋市内の各地域でも感じるわけです。

前橋市内でコンパクトシティと言いますと前橋駅から中心商店街までの間を

どうしても中心に考えがちなのです。その周辺部を切り捨てるということはないと思いますが、意識をする必要があるかと思います。例えば、前橋は農業都市としての力を持っているわけですから、各地域が人口を繋ぎ止めていけるようにしていかななくてはならないと思います。粕川、宮城、大胡、富士見、城南、東など各地域があるわけですが、それぞれの地域ごとに核となる場所があつて欲しいと思います。職員の人員配置は、合併した地域もすべて含めて配置をするのでしようけれども、その結果、特定の地域に詳しい職員が減ってしまっているということにもあるわけです。核となる地域を作るために、商店街や支所も役割を果たせるとしますので、地域を良く分かっている職員を減らすことのないようにしていくことも必要かと思います。

総合戦略に係る骨子案についてですが、「東京一極集中」の2項目目で、東京都の出生率が低いことが指摘されておりますが、人口が多いからと言って年少人口が多いわけではありません。前橋の今後を考える場合にも、ただ人口増やすのではなく、年少人口が増えていくような方策を考えていく必要があるかと思います。そのためには、「子育て環境の充実」と「働き方改革」「ワークライフバランス」が重要になってくると思います。「社会保障費用の増大」について書かせていただきましたが、国の制度の問題もありますので、国に対しても言うべきことは言うていくことが必要だと考えています。

基本目標と政策パッケージについてですが、結婚したい、子どもを持ちたいと思っても、お金がなければどうにもならないわけです。そのため、低賃金不安定雇用を解消していく、また、長時間労働というのも子育ての時間を奪ってしまいますし、せつかく子どもを持ったとしても子どもと関わる時間が少ないということでは、意味がありませんから、やはりワークライフバランス、具体的には、午後6時には帰れるような、男女ともそれが当たり前となるような社会であつてほしいと思います。

私自身経験がありますけれども、子どもが熱を出したとき、保育園や幼稚園、学校から連絡が掛かってきます。仕事を中断して帰ったこともあります。そういったときに、療養児保育とかあったらいいなと思うときもありますが、一方で、私は本業が群馬大学の教授なので時間を融通しやすいのですが、多くの職場で迎えの話があつたとしても暖かく送り出せる職場であつてほしいと思います。男女関わりなくです。男女が関わりなく、同僚が子どもの呼び出しがあつたとしても「行っておいで。後は私達に任せてね」と言ってもらえるような職場であつてほしいと思います。

最後に、男女共同参画の観点からすると、第3次男女共同参画基本計画という国の計画があり、「2020年までに指導的立場の女性の比率を30%以上にする」という目標があります。例えば、この有識者会議の女性比率は低いですよ。女性の占める人口割合は、50%以上あるのにも関わらずです。市役所の管理職を見ても低いです。市議会議員も低いです。男性ばかりで会議を開き、「女性の活躍」とか言われても女性から見れば「何それ」と思うわけです。そういう点から考えますと、まさにこの問題については、女性が参画する仕組みを考えていく必要があると思います。以上です。

<p>木暮委員</p>	<p>の木暮副会長様お願いいたします。</p> <p>よろしくお願いいたします。高齢社会が急速に進んでいる様子が分かりやすく示されていると思います。</p> <p>「将来展望」の中で、「シミュレーション」や「パターン」をよりわかりやすい言葉で表現することが必要と思います。</p> <p>総合戦略の骨子案に対する提案・意見については、高齢化の進展の中で、子育て世代による「親の介護への対応負担の増大」「介護のための離職」などが考えられると思います。</p> <p>基本目標と政策パッケージについては、「子育てと仕事が両立できる職場づくり」をまず公的機関から進める必要があると思います。</p> <p>その他の意見としては、民生委員児童委員や主任児童委員は、民生委員児童委員や主任児童委員は、子育て中の親への支援として、地域の公民館などで「子育てサロン」の運営に協力しています。</p> <p>親からの相談の中で、「子育てに関する悩み」や「家族に関する悩み」などを受け止めています。</p> <p>若い世代が希望を持って子育てをできるように、地域のつながりを大切にしつつ、関係機関と連携して、支援したいと思います。以上です。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>ありがとうございました。続きまして、前橋市社会福祉協議会の梅澤会長様お願いいたします。</p>
<p>梅澤委員</p>	<p>前橋市社会福祉協議会の梅澤でございます。時間も差し迫っていることから、かいつまんで申しあげたいと思います。前橋版人口ビジョンの骨子案に対する提案・意見とその理由でございますが、人口の量に加えて、生活の質に注目すべきであると考えます。</p> <p>具体的には、「転入出者に対するアンケート」を実施し、「まえばしの良いところ」「改善すべきところ」を具体的に把握することが有効と考えます。</p> <p>次に前橋版総合戦略の骨子案に対する提案・意見とその理由についてですが、基本認識としまして、平成27年度からの10か年計画である、「第2次前橋市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を踏まえる必要があります。</p> <p>特に、「地域包括ケアシステム」の充実に向けて、高齢社会において増大するニーズに対する「ヘルスケア産業の充実」や「住民主体の福祉活動の充実」など、「生活支援サービスの充実」の視点が必要かと思われまます。</p> <p>基本目標と政策パッケージについてですが、「住・職」の充実の視点を取り入れる必要があると考えます。</p> <p>①「住」＝公共交通機関の充実とコンパクトシティ 東京からの移住の基本要件です。また、電車とバスの連動、コミュニティバスの充実を通じたまちづくりが必要です。</p> <p>②「職」＝多様な働き方と社会参加の充実 ワークライフバランス（時間外勤務の縮減、休暇取得への配慮）や、ワークシェアリング、ユニバーサル就労など、子育て中や、障害があっても、高齢でも働きやすい職場環境が必要です。</p>

<p>曾我座長</p>	<p>その他の自由意見として前橋市社協は「安心して暮らせる福祉のまちづくり」を進めています。</p> <p>福祉分野と、日頃は関わりが少ない「産・学・官・金・労・言・市民」のみなさまとともに「住・職」の充実を通じた「福祉のまちづくり」進めたいと考えています。以上でございます。</p> <p>どうもありがとうございました。ご意見を事前にいただいた方から、ご意見をいただきました。本当に限られた時間の中で恐縮でございます。他にご発言の無い方々からご意見はありますでしょうか。</p>
<p>田委員</p>	<p>人口減少については、もう少し末端のご意見を聞いた方がいいだろうと思います。この会議では良いご意見は出るものの、なかなか末端までには届かないと思います。</p> <p>私は普段住民と関わりを持っておりますが、今は夫婦で一生懸命働かなければ食べていくことができない状況です。末端の人を意識した政策を考えてもらう必要があると思います。</p> <p>地域に目を向けてみると30代、40代の方々が自治会の行事に出ないというのが現状です。理由としては、仕事が大変であるため、行事に参加できないと思います。総合戦略の中にそういった現状を踏まえて考えてもらえればと思います。</p> <p>次に農業をする人が減っているということですが、減っている理由は収入が少ないということなんです。今、米一俵あたり5,000円売買されます。一反で7俵くらいしか取れませんので、35,000円しか稼げないわけです。</p> <p>こうした状況であることから、農業就業者に配慮した政策も考えてもらわないといけないと思います。私も農業をやったこともあります。末端の意見を取り上げてくれればと思います。私からは以上です。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>ありがとうございます。まだ、意見を述べていないのは前橋商工会議所の私だけなのですが、座長を務めております。次回からは商工会議所からも意見の陳述をした方が良いでしょうと思いますので、前橋市商工会議所の村井部長からしっかりとした意見陳述をさせていただきたいと思います。</p> <p>本日は有識者会議としてふさわしいご意見を頂戴しました。大変ありがとうございます。皆様からの意見の中で多く出てきたのは、データをもう少し深堀りをして骨子案を示すことが必要なのではないかということでした。このあたりは、事務局に心得いただければと思います。</p> <p>残すところ時間が5分となりましたので、事務局の原田政策推進課長補佐様、谷内田政策推進課長様から各委員からのご意見を聞いて、今後の取組についてお話していただければと思います。</p>
<p>原田政策推進課長補佐</p>	<p>私の方からご意見を沢山頂戴した人口ビジョンについて話をさせていただきます。私共では気づかないような視点もあり、大変参考になりました。データにつきましては、既に国から地方へ下ろされているものもございます。</p> <p>また、市が持っている地区別、年齢別の統計データがございますので、それ</p>

を加工し直しまして、人口ビジョンの策定に活かしていきたいと思います。皆様にお示しできる部分については、今後お示ししたいと思います。

それから、大森委員さんや松井委員さんからお話ありがとうございました、現状の生活を維持するためには、どの程度の人口を維持すれば良いのかということも国から示されております。

国からは人口ビジョンを策定するにあたり、二つの戦略、「積極戦略」と「調整戦略」に基づいて試算をなさいと言われております。

積極戦略とは、人口減少が見込まれているものの、「前橋は人口をこれから増やしていくんだ」という積極的な戦略をとっていくにはどういった戦略が必要なのか、何を目標にするのか、というものでございます。

調整戦略とは、人口減少は否めないものの、今現在の生活レベルを維持していくためにはどの程度の人口が必要なのか、どういった戦略が必要なのか二パターン考えるようにと国から言われております。大森委員さんや松井委員さんのご意見は、調整戦略に当たると思われます。調整戦略についても試算をして、皆様にお示しをしていければと思います。

曾我座長

どうもありがとうございました。それは谷内田政策推進課長様よろしく願いいたします。

谷内田政策推進課長

私の方からは、総合戦略について話をさせていただきます。本日、使用しなかった資料3-2が前回の有識者会議で皆様から頂いた意見を集約し、意見ごとにキーワードを挙げさせていただきました。

今回、委員の皆様から更に深掘したご意見を頂いておりますので、意見を聞きっぱなしにしないように「頂いたご意見からこのように考え、このように判断し、このようにまとめました」ということを資料としてまとめ、次回の有識者会議の前にお送りしたいと思います。

これからは、人口ビジョン及び総合戦略を「より連携をする」「深堀をする」「具体的にしていく」という作業に移って参ります。

今回、事前に資料を各委員様方に送らせていただいて意見を頂き、資料を作成しておりますが、より充実させていきたいと考えております。よろしく願いいたします。

曾我座長

どうもありがとうございました。お2人につきましては、話をまとめていただき感謝いたします。話がありましたとおり、人口ビジョン及び総合戦略をまとめていく段階になります。委員の皆様には、本日の会議内容などお問い合わせすることがございましたら谷内田さん、原田さんにご連絡をお願いいたします。以上を持ちまして、議事を終わらせて頂きたいと思います。

藤井政策部長

曾我座長様、議事進行ありがとうございました。次に、事務局から事務連絡等がありましたらお願いします。3点事務連絡がございます。

原田政策推進課長補佐

まず1点目につきまして、第1回有識者会議の会議録についてでございます。今回の会議資料と一緒に送付させていただき、ご確認いただいていると思いま

すが、修正等がありましたら本日お帰りの際に事務局までお申し出ください。会議録につきましては、今後、前橋市ホームページにて公開させていただきます。

次に、2点目でございます。次回の有識者会議の日程でございます。今後、「人口ビジョン」や「総合戦略」の策定の進み具合に合わせて日程調整させていただきます、概ね開催1か月前を目途に通知させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

続いて、3点目でございます。前橋創生シンポジウムのご案内です。お手元のチラシをご覧ください。9月5日（土）午後4時30分から前橋マーキュリーホテルにおいてシンポジウムを開催します。第1部は藻谷浩介さんによる基調講演を行います。第2部は藻谷さん、ジェイ・アイ・エヌ社長の田中さん、女性起業家の中村さん、山本市長によるパネルディスカッションを予定しております。現在、チラシを作成中ですので、出来次第、有識者会議委員のみなさまにはまとまった枚数を送付いたします。係の方々にご周知いただき、聴講いただければと思います。以上です。

藤井政策部長

今の事務連絡について、ご質問等があればお願いします。

（質問なし）

以上をもちまして、県都まえばし創生本部・第2回有識者会議を閉会いたします。長時間にわたりましてご協議いただき、誠にありがとうございました。

以上

--	--

